

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第25週（6月19日～6月25日）

★お知らせ

○夏型感染症（手足口病・ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱）に気を付けて

1)手足口病

県全域で警報値(5.00)を超えています。

定点医療機関当たりの報告数は第24週の7.73から第25週では11.70と増加し、引き続き警報値を超えています。安芸では急減していますが、高知市、幡多で急増、須崎では増加し、高知市、須崎、中央西、中央東で警報値を、幡多では注意報値を超えています。高知県では第18週以降7週連続して増加しており、また、過去5年間の同時期と比較しても多くなっていることから注意が必要です。

定点医療機関からのホット情報でも手足口病の流行が継続しているとの報告があります。

病原体検出情報では、第22週、第23週に搬入された検体で高知市と須崎からCA6（Coxsackievirus A6）が6件検出されています。

全国でも定点医療機関当たりの報告数は第13週以降増加が続いています。

国内の手足口病由来ウイルスの検出状況は、2017年第1週から第22週までの合計でCA6のが50.6%と最も多くなっています。

手足口病は、CA16（Coxsackievirus A16）、EV71（Enterovirus71）さらにCA6などのエンテロウイルスが病因となり、4歳くらいまでの幼児を中心に夏季に流行が見られる疾患です。2歳以下が半数を占めますが、学童でも流行的発生がみられることがあります。特に、この病気にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは注意が必要です。

通常は3～5日の潜伏期をおいて、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができます。ほとんどの発病者は数日間のうちに治る病気ですが、ごくまれに髄膜炎や脳炎などを生じることがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。また、倦怠感や口腔内の痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもありますので、こまめな水分補給を心がけてください。

近年のCA6による手足口病では、従来の手足口病と発疹の出現部位が異なり、水疱は扁平で臍窩（発疹にくぼみがある）を認め、これまでより大きいことや、手足口病発症後、数週間後に爪脱落が起こる症例（爪甲脱落症）も報告されていますが、これらは自然に治るとされています。

手足口病は、回復後も2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあるので、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避けましょう。特に、外出後、食事の前、トイレの後に手洗いをしましょう。

高知県の保健所別の定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況（2017年第25週）

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前		6週前	
	第25週		第24週		第23週		第22週		第21週		第20週		第19週	
	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況
高知県全域	11.70	△	7.73	△	4.00	○	2.60	○	1.07	-	0.83	-	0.10	-
安芸	1.00	-	2.00	○	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中央東	8.86	△	9.00	△	5.00	△	3.57	○	0.86	-	0.14	-	-	-
高知市	19.27	△	9.73	△	4.82	○	2.27	○	1.00	-	1.09	-	0.27	-
中央西	10.33	△	9.67	△	7.67	△	3.00	○	0.33	-	-	-	-	-
須崎	12.00	△	10.00	△	4.00	○	9.00	△	7.00	△	5.50	△	-	-
幡多	4.00	○	1.80	-	-	-	0.20	-	-	-	0.20	-	-	-
全国			2.07	○	1.59		1.34	-	0.97	-	0.86	-	0.52	-

注意報値：○（2以上5未満） 警報値：△（5以上）

2)ヘルパンギーナ

定点医療機関当たりの報告数は第24週の1.03から第25週では1.13と横ばいです。中央東、安芸では急減、中央西で減少していますが、高知市、須崎では急増し、高知市では注意報値を超えています。

ヘルパンギーナは、発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎で、乳幼児を中心に夏季に流行するいわゆる夏かぜの代表的疾患です。2～4日の潜伏期の後、突然の高熱、咽頭痛や咽頭発赤を呈し、口腔内に水疱や発赤が現れます。水疱は破れて痛みも伴います。2～4日で解熱し、通常は7日程度で治癒します。高熱による倦怠感や口腔内の痛みなどから、食事や水分を

十分にとれず、脱水になることもあります。合併症としては、熱に伴う熱性けいれんと、まれに髄膜炎や筋炎が生じることがあります。頭痛やおう吐、発熱が続く場合は主治医に相談しましょう。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに触れることによって感染（飛まつ・接触感染）するので、一般的な予防対策（手洗い、うがい、咳エチケット等）を心がけることが大切になります。

症状がおさまった後も、2～4週間程度は便などにウイルスが排泄されるため、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いを徹底しましょう。

3)咽頭結膜熱

定点医療機関当たりの報告数は第24週の0.20から第25週では0.40と急増しています。中央東で急減していますが、高知市、幡多で急増しています。

定点医療機関からのホット情報ではアデノウイルス感染症として5例の報告があり注意が必要です。

咽頭結膜熱は、アデノウイルス感染による、発熱（38～39度）、のどの痛み、結膜炎を主症状とする小児に多い疾患で、例年5月中旬から下旬頃にかけて患者数が増加し始め、7月下旬から8月上旬をピークとする流行が見られる夏期の疾患で、プールを介して流行することがあることから、「プール熱」とも呼ばれています。

感染経路は通常、飛まつ感染または手指を介した接触感染ですが、プールでは目の結膜からの感染も考えられています。以下のことに気を付け、感染予防に努めましょう。

- 1) 流行時には流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう。
- 2) 感染者との密接な接触は避けましょう。
- 3) タオル等は別のもので使いましょう。
- 4) プールからあがった時はシャワーをよく浴びましょう。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第24週の2.50から第25週では2.17と横ばいです。幡多、中央西で急減、中央東で減少していますが、須崎で急増し、高知市では4週連続注意報値を超えています。

定点医療機関からのホット情報では溶連菌感染症として16例の報告があります。

また、学校等欠席者・感染症情報システム※でも27例の報告があることから、引き続き注意が必要です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる飛まつ感染、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染が主な感染経路です。

突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。症状は1週間以内に消失する予後良好の疾患ですが、まれに重症化し猩紅熱に移行する場合があります。合併症には肺炎、髄膜炎、敗血症などがありますので、うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第24週の3.33から第25週では3.33と横ばいです。須崎で急減していますが、中央西で急増、幡多で増加しています。

定点医療機関からのホット情報ではロタウイルス10例の報告があり、基幹定点からの感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）が6例報告されています。また、病原性大腸菌やカンピロバクター属菌（第24週の報告も含む）など細菌を原因とする胃腸炎9例の報告もあります。病原体検出情報では、第24週に搬入された検体で高知市から *Salmonella Thompson* が検出されています。

学校等欠席者・感染症情報システム※でも9例の報告があることから、引き続き注意が必要です。

ロタウイルス感染性胃腸炎とは、乳幼児を中心に流行するロタウイルスによる胃腸炎で、主な症状は、水のような下痢、吐き気、嘔吐（おうと）、発熱、腹痛です。脱水症状がひどくなると点滴が必要となったり、入院が必要になることがあります。脱水を防ぐための水分補給や体力を消耗したりしないように栄養を補給しましょう。

予防には手洗いが有効です。帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。また、便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しま

しょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

また、ロタウイルスによる感染症の予防対策には予防接種があり、乳幼児を中心に受けることができますので、かかりつけの医療機関にご相談ください（任意接種）。

細菌による感染性胃腸炎のほとんどの場合、患者との接触（便など）や汚染された水、食品によって経口的に感染します。これら細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（①つけない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））を励行しましょう。

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

☆山や草むらでの野外活動の際にはマダニに注意！

第25週にSFTS（重症熱性血小板減少症候群）の発生届けが1例ありました。

日本紅斑熱やSFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

キャンプ、ハイキング、登山、ゴルフ、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。この時期、野山に生息するマダニに刺されることで感染症を起こすことがあります。

全てのマダニが病原体を持っているわけではありませんが、これらのマダニに咬まれないようにすることが感染の予防になります。（予防するためのワクチン等はありません。）

野山や畑、草むら等に出かける時には長袖・長ズボンを着用し、シャツの裾はズボンの中に入れ、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる等、肌の露出を少なくし、マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を使用する等して、効果的な対策を自ら取ることが大切です。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

● 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	効力持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することもある
	12%	防除用医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用医薬品	約6時間		
イカリジン	5%	防除用医薬部外品	～6時間		
	高濃度製剤 15%	防除用医薬品	6～8時間		

※ 国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋

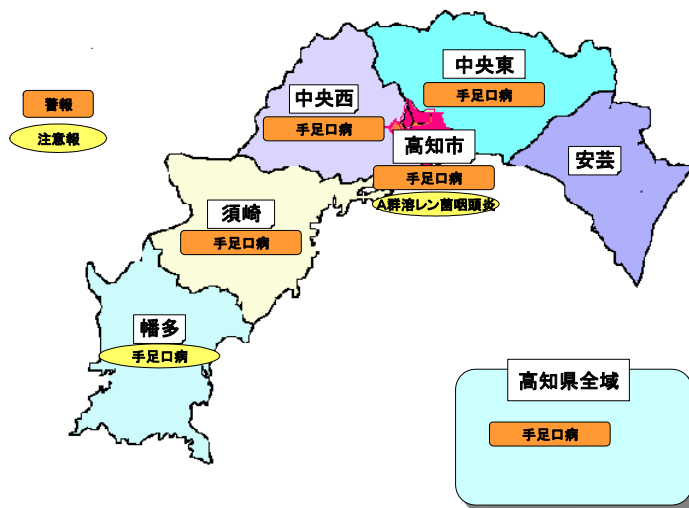
※ 市販の虫よけ剤(忌避剤)は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減
 25週（6月19日～6月25日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
手足口病	↗	11.70	安芸で急減していますが、高知市、幡多で急増、県全域、須崎で増加しています。県全域、高知市、須崎、中央西、中央東で警報値、幡多では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	→	3.33	須崎で急減していますが、中央西で急増、幡多で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	2.17	幡多、中央西で急減、中央東で減少していますが、須崎で急増し、高知市で注意報値を超えています。
ヘルパンギーナ	→	1.13	中央東、安芸で急減、中央西で減少していますが、高知市、須崎で急増しています。
咽頭結膜熱	↑	0.40	中央東で急減していますが、県全域、高知市、幡多で急増しています。

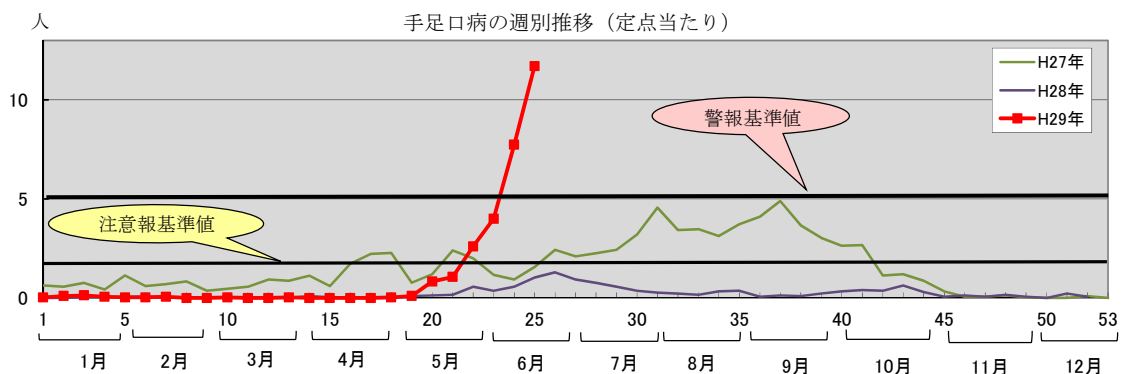
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

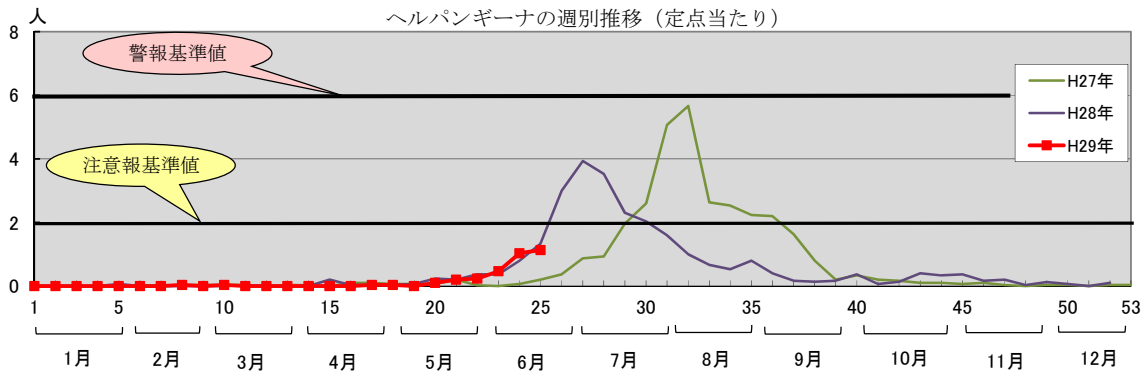
○手足口病 第25週：11.70（注意報値：2.00 警報値：5.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 11.70（前週：7.73）と増加し、警報値を超えています。安芸 1.00（前週：2.00）で急減していますが、高知市 19.27（前週：9.73）幡多 4.00（前週：1.80）で急増、須崎 12.00（前週：10.00）増加し、高知市、須崎、中央西 10.33（前週：9.67）、中央東 8.86（前週：9.00）では警報値、幡多では注意報値を超えています。報告を年齢別にみると、96%が4歳以下になっています。



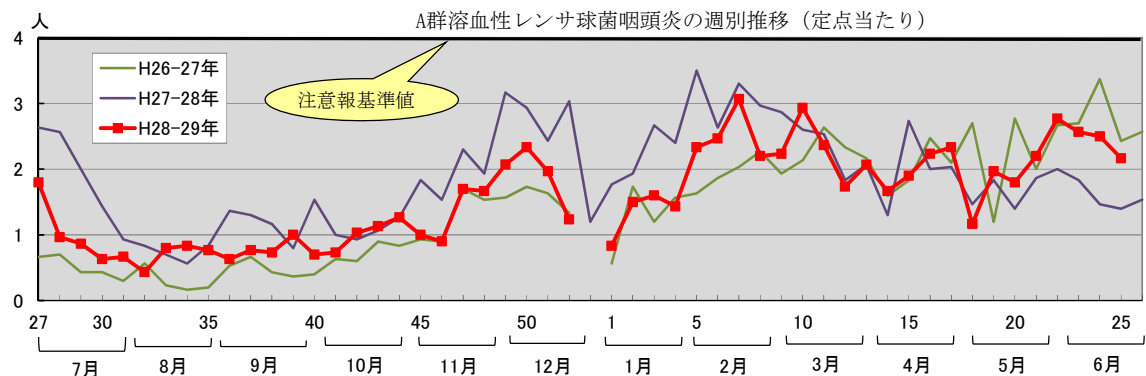
○ヘルパンギーナ 第25週：1.13（注意報値：1.00 警報値：3.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり1.13（前週1.03）と横ばいです。中央東0.29（前週：1.43）安芸0.00（前週：0.50）で急減、中央西1.00（前週：1.33）で減少していますが、高知市2.00（前週：1.00）須崎1.00（前週：0.00）で急増しています。



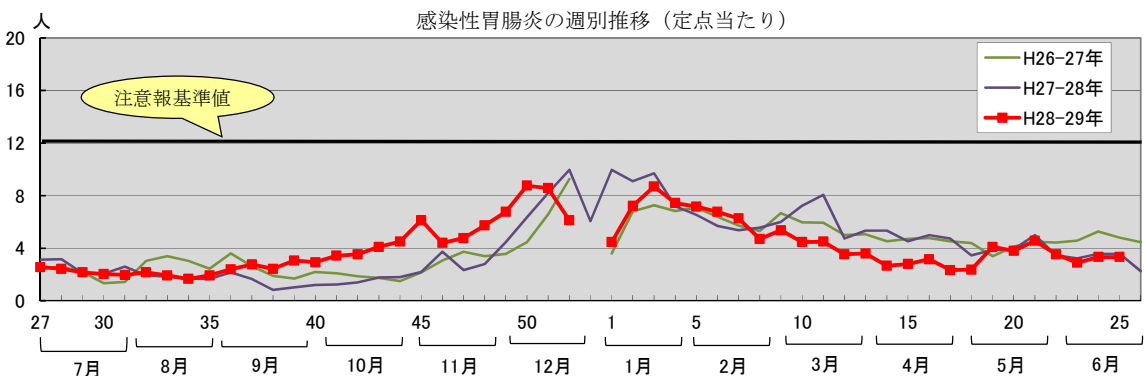
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第25週：2.17（注意報値：4.00 警報値：8.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり2.17（前週：2.50）と横ばいです。幡多0.40（前週：1.80）中央西0.33（前週：1.33）で急減、中央東1.29（前週：1.57）で減少していますが、須崎3.00（前週：0.00）で急増し、高知市4.27（前週：4.64）では4週連続で注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎 第25週：3.33（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり3.33（前週：3.33）と横ばいです。須崎1.00（前週：4.50）で急減していますが、中央西0.67（前週：0.33）で急増、幡多3.80（前週：2.60）で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。

そのため、H26-H27年とH28-H29年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
20	喘息性気管支炎	38℃,咳漱,	1	男	中央東	Rhinovirus
22	呼吸器感染症	40℃,咳漱,気管支炎,	1	男	中央東	Coxsackievirus A6
22	不明熱	40℃,下痢,発疹,	9ヶ月	女	須崎	Coxsackievirus A6
22	手足口病	39℃,手足口病症状,	2	男	須崎	Coxsackievirus A6
22	手足口病	37℃,発疹,	1	男	須崎	Coxsackievirus A6
22	急性上気道炎	38℃,上気道炎,	1ヶ月	男	高知市	Rhinovirus
22	—	39℃,咳漱,	1	女	須崎	Rhinovirus
23	手足口病	39℃,発疹,	1	女	高知市	Coxsackievirus A6
23	手足口病	39℃,水疱,発疹,口内炎,	3	女	高知市	Coxsackievirus A6
23	手足口病	38℃,発疹,口内炎,	11ヶ月	女	高知市	Coxsackievirus A6
23	手足口病	38℃,発疹,	1	女	須崎	Coxsackievirus A6
24	気管支炎	気管支炎,	2ヶ月	男	幡多	Parainfluenza virus 3
24	感染性胃腸炎	39℃,下痢,嘔吐,嘔気,	2	女	高知市	Salmonella Thompson

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	42	90歳代 男	高知市
		1		80歳代 女	中央西
4類	オウム病	1	1	70歳代 女	高知市
	重症熱性血小板減少症候群	1	2	80歳代 女	幡多
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	9	50歳代 男	高知市
	梅毒	1	11	20歳代 男	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	野市中央病院小児科	病原性大腸菌 O-6 (ベロ毒素 (-)) 1例 (12歳女)
	高知大学医学部付属病院小児科	ヒトメタニューモニア肺炎 1例 (8ヶ月女)
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス扁桃炎 3例 (2歳3人) マイコプラズマ肺炎 2例 (14歳、30歳) ロタウイルス腸炎 3人 (3歳、4歳、64歳) 病原性大腸菌 O-25 腸炎 1例 (4歳) カンピロバクター腸炎 3例 (4歳、8歳、10歳) カンピロバクター+病原性大腸菌 O-8 腸炎 1例 (10歳)
	福井小児科・内科・循環器科	手足口病と突発性発疹の同時感染 1例 (10ヶ月女) 溶連菌感染症 15例 手足口病がはやっている (子供からうつった両親もいる)
	細木病院小児科	ロタウイルス 3例 (1歳男、3歳女、4歳女)
	高知医療センター小児科	病原性大腸菌 1例 (3歳男) ロタウイルス 1例 (2歳男) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1例 (4歳女)
	国立病院機構高知病院小児科	感染性胃腸炎 (ロタウイルス) 1例 (1歳男)
中央西	くぼたこどもクリニック	水痘 1例 (7歳女:仁淀川町) 手足口病 2例 (2歳女:高知市、3歳女:室戸市) アデノウイルス感染症 1例 (2歳女)
須崎	もりはた小児科	ロタ胃腸炎 2例 HFMD (手足口病) 流行が続く 24w カンピロバクター腸炎 1例 (4歳男)
幡多	胃南病院小児科	アデノウイルス扁桃炎 1例 (8歳女)

★全国情報

第23号(6月5日～6月11日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核419例

3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症50例、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎3例、A型肝炎3例、重症熱性血小板減少症候群5例、つつが虫病6例、デング熱3例
日本紅斑熱10例、レジオネラ症28例

5類感染症：アメーバ赤痢16例、ウイルス性肝炎3例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症18例
急性脳炎9例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症10例
後天性免疫不全症候群21例、ジアルジア症2例、侵襲性インフルエンザ菌感染症6例、
侵襲性肺炎球菌感染症49例、水痘（入院例に限る）3例、梅毒68例、
播種性クリプトコックス症1例、破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、
風しん1例

報告遅れ：細菌性赤痢2例、E型肝炎3例、レジオネラ症6例、
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症19例、急性脳炎2例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、水痘（入院例に限る）5例、梅毒45例
播種性クリプトコックス症1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第25週 平成29年6月19日(月)～平成29年6月25日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第25週							計	前週	全国(24週)	高知県(25週末累計) H29/1/2～H29/6/25	全国(24週末累計) H29/1/2～H29/6/18
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	高知市					
インフルエンザ*	インフルエンザ								()	()	1,265 (0.26)	14,629 (304.77)	1,356,723 (273.86)	
小児科	咽頭結核熱				9			3	12 (0.40)	6 (0.20)	3,067 (0.97)	194 (6.47)	36,275 (11.47)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				9	47	1	6	65 (2.17)	75 (2.50)	11,323 (3.59)	1,561 (52.03)	186,854 (59.07)	
	感染性胃腸炎	6	25	46	2	2	19	100 (3.33)	100 (3.33)	22,344 (7.08)	3,394 (113.13)	462,806 (146.32)		
	水痘				4	1	5	10 (0.33)	16 (0.53)	1,313 (0.42)	329 (10.97)	28,569 (9.03)		
	手足口病	2	62	212	31	24	20	351 (11.70)	232 (7.73)	6,520 (2.07)	858 (28.60)	34,271 (10.83)		
	伝染性紅斑							()	4 (0.13)	306 (0.10)	83 (2.77)	6,114 (1.93)		
	突発性発疹				4			1	5 (0.17)	17 (0.57)	1,693 (0.54)	271 (9.03)	33,842 (10.70)	
	百日咳							()	1 (0.03)	51 (0.02)	16 (0.53)	637 (0.20)		
	ヘルパンギーナ		2	22	3	2	5	34 (1.13)	31 (1.03)	1,762 (0.56)	99 (3.30)	7,686 (2.43)		
	流行性耳下腺炎				1			1 (0.03)	7 (0.23)	1,549 (0.49)	150 (5.00)	44,796 (14.16)		
RSウイルス感染症							1	1 (0.03)	1 (0.03)	863 (0.27)	224 (7.47)	19,971 (6.31)		
眼科	急性出血性結核炎							()	()	13 (0.02)	()	216 (0.31)		
	流行性角結核炎							()	1 (0.33)	581 (0.84)	10 (3.33)	9,927 (14.30)		
基幹	細菌性髄膜炎				1			1 (0.13)	()	4 (0.01)	2 (0.25)	233 (0.49)		
	無菌性髄膜炎							()	1 (0.13)	14 (0.03)	4 (0.50)	381 (0.80)		
	マイコプラズマ肺炎							1	1 (0.13)	2 (0.25)	93 (0.20)	65 (8.13)	3,942 (8.26)	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							()	()	6 (0.01)	6 (0.75)	125 (0.26)		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		1	5				6 (0.75)	4 (0.50)	121 (0.25)	80 (10.00)	4,606 (9.66)		
計 (小児科定点当たり人数)	8 (4.00)	99 (14.01)	351 (31.35)	38 (12.66)	39 (19.50)	52 (10.20)	587 (19.29)	498 (16.31)	52,888	21,975 (544.07)	2,237,974			
前週 (小児科定点当たり人数)	11 (5.50)	118 (16.87)	250 (22.18)	43 (14.32)	33 (16.50)	43 (8.20)								

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第25週							計	前週	全国(24週)	高知県(25週末累計) H29/1/2～H29/6/25	全国(24週末累計) H29/1/2～H29/6/18
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	高知市					
インフルエンザ*	インフルエンザ										0.26	304.77	273.86	
小児科	咽頭結核熱				0.82			0.60	0.40	0.20	0.97	6.47	11.47	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1.29	4.27	0.33	3.00	0.40	2.17	2.50	3.59	52.03	59.07	
	感染性胃腸炎	3.00	3.57	4.18	0.67	1.00	3.80	3.33	3.33	7.08	113.13	146.32		
	水痘			0.36	0.33	2.50	3.80	0.33	0.53	0.42	10.97	9.03		
	手足口病	1.00	8.86	19.27	10.33	12.00	4.00	11.70	7.73	2.07	28.60	10.83		
	伝染性紅斑								0.13	0.10	2.77	1.93		
	突発性発疹			0.36			0.20	0.17	0.57	0.54	9.03	10.70		
	百日咳								0.03	0.02	0.53	0.20		
	ヘルパンギーナ		0.29	2.00	1.00	1.00	1.00	1.13	1.03	0.56	3.30	2.43		
	流行性耳下腺炎			0.09				0.03	0.23	0.49	5.00	14.16		
RSウイルス感染症						0.20	0.03	0.03	0.27	7.47	6.31			
眼科	急性出血性結核炎									0.02		0.31		
	流行性角結核炎								0.33	0.84	3.33	14.30		
基幹	細菌性髄膜炎			0.20				0.13		0.01	0.25	0.49		
	無菌性髄膜炎								0.13	0.03	0.50	0.80		
	マイコプラズマ肺炎						1.00	0.13	0.25	0.20	8.13	8.26		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0.01	0.75	0.26		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		1.00	1.00				0.75	0.50	0.25	10.00	9.66		
計 (小児科定点当たり人数)	4.00	14.01	31.35	12.66	19.50	10.20	19.29	16.31		544.07				
前週 (小児科定点当たり人数)	5.50	16.87	22.18	14.32	16.50	8.20								

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869